* ベンチマークテスト　ステップ７　統計的手法

|  |  |
| --- | --- |
| 氏名（所属） | 眞鍋俊平（応用地質㈱）E-Mail : manabe-syunpei@oyonet.oyo.co.jpTel : 029-851-6538 |
| (1)計算モデル | ・SS81およびSS83SS82,84は時間が足りずできませんでした。 |
| (2)用いた手法ソフト名・作成者 | ・自作プログラム |
| (3)参考文献 | 柴田明徳：最新　耐震構造解析 |
| (4)有効振動数と時間刻み | ・0-50 Hz・計算時間刻み0.02s、データ数16384、継続時間327.68s |
| (5)乱数発生法 | ・計算値による加速度フーリエ振幅スペクトル（ターゲットスペクトル）に対し、一様乱数によるフーリエ位相スペクトルを与え、フーリエ逆変換により加速度時刻歴波形を得る。次に、経時特性による包絡関数を乗じ、フーリエ変換を行う。再度ターゲットスペクトルに合うように振幅値を調整し、フーリエ逆変換を行う。最後に、後続波の調整を行い、種波形を得る。 |
| (6)経時関数 | ・佐藤他(1994) |
| (7)重ね合わせ | ・入倉他(1997) |
| (8)減衰の導入法 | ・指定した減衰を使用 |
| (9)地盤モデル | ・指定モデルを使用 |
| (10)表層地盤の 増幅率 | ・1次元重複反射理論（SH波）・SS83はSS81による解放工学的基盤波を表層地盤モデルに入射して計算した。 |
| (11)提出波形に施した波形処理 | ・特になし |
| (12)SS82,84の説明 （任意） |  |
| (13)その他 | ・座標系は直交座標系ではなく、緯度経度を使用・走時については、付録2の笠原(1985)球殻モデルを使用・放射特性をSH=SV=0.445として計算・震源からサイトの方位角を0度として計算（SVがNS、SHがEW）・NS成分はP-SV波動で計算しているが、入射角を0度に近づけて計算 |